

三人の妻への手紙 (A Letter to Three Wives)

観賞日 2022年11月14日 上映時間 103分

【概要】

制作 1949年 アメリカ

監督 ジョセフ・L・マンキウィッツ

脚本 ジョセフ・L・マンキウィッツ、ヴェラ・キャスパリー

音楽 アルフレッド・ニューマン

撮影 アーサー・C・ミラー

出演 ジーン・クレイン (デボラ・ビショップ)、アン・サザーン (リタ・フィップス)

リンダ・ダーネル (ローラ・メイ)、カーク・ダグラス (ジョージ・フィップス)

セルマ・リッター (サディ・デュガン)



【あらすじ】

戦後間もないころのアメリカ。デボラ、リタ、ローラの三人は近所に住む仲良し三人組。三人は夫婦で家族ぐるみの付き合いをしている。デボラは農家の娘で三人の中で唯一田舎育ち。海軍時代に当地の名家のブラッドと知り合い結婚した。ラジオ作家のリタは幼馴染で薄給の高校教師、ジョージと結婚。ローラはデパート経営者で金持ちのポーターと結婚していた。土曜日、三人は婦人クラブの行事で近くの湖にピクニックに出かける。遊覧船に乗る間際、「三人のうちの誰かのご主人と駆け落ちします」というアディ・ロスからの手紙を受け取る。アディは三人の夫がかつて憧れていた町一番の美人でマドンナ的存在。三人は表面的には平静を装うが内心大きく動揺する。それというのも三人にはそれぞれ手紙の内容に思い当たる節があったからだ。都会育ちと田舎育ちの夫婦。収入逆転の夫婦。貧富の差がある夫婦。現に、いつも行くゴルフに行かなかったデボラの夫ブラッド、釣りを急に止め背広に着がえたりタの夫ジョージ、駅で見かけたローラ・メイの夫ポーター、怪しい夫たちの行動。果たして、アディと駆け落ちするのは誰の夫なのか？

脚本家出身の映画監督マンキウィッツがその才能をいかんなく発揮したサスペンス・ラブコメディ。

【解説】

■ポイント

●見事なシナリオ

観客を惹きつけるスリリングな導入部。三組の夫婦の馴れ初めから現在に至るまでに起きた象徴的なエピソードを巧みに取り入れた展開部。洒落たエンディング。

名匠、ビリー・ワイルダーは「映画の8割はシナリオで決まる」と語り、アルフレッド・ヒッチコックは良い作品を作るためには「一にシナリオ、二にシナリオ、三にシナリオ」とシナリオの重要性を強調している。

●受賞：1949年第22回アカデミー賞

3部門にノミネートされ2部門で受賞 監督賞・脚本賞：ジョセフ・L・マンキウィッツ

マンキウィッツは翌年の「イヴの総て」でも2年連続監督賞と脚本賞をダブル受賞

■見どころ

●手紙を見た三人の妻の平静を装いながらの動揺ぶり

●電車が通るたびに揺れるローラ・メイの実家

●アディ・ロスは夫婦を引き裂く破壊者だったのか？

話題の中心で、夫たちの憧れの的。画面に登場しないアディ・ロスの存在感

●三組の夫婦のなかであなたが選ぶベスト・カップルは？